

令和2年度第1回草津市健幸都市づくり推進委員会

日 時： 令和2年8月27日（木）13時30分～15時30分
場 所： 草津市役所8階大会議室
出席委員： 三浦委員長、藤田副委員長、小沢委員、塚口委員、浦部委員、河合委員、齋藤委員、先川委員、井上委員、柴田委員、南委員、吉川委員、荒木委員、中瀬委員
欠席委員： 新崎委員、園田委員、黒川委員、小泉委員、関川委員、村田委員
事務局： 副市長、健康福祉部増田部長、健康福祉部永池副部長、健康福祉部江南副部長、都市計画部辻川部長、建設部生田副部長、商工観光労政課井上課長、健康福祉政策課岸本課長、健康福祉政策課田村係長、健康福祉政策課河上主査

傍聴者： 1名

次 第：

1 開会

2 議事

- 1) 草津市健幸都市基本計画の令和元年度および令和2年度の主な取組について
- 2) 健幸都市づくりの推進に向けた意見交換
コロナ禍における健幸都市づくりについて

3 閉会

1. 開会

【市長】

皆さんこんにちは。副市長の山本でございます。本来ですと、市長が出席し御挨拶申し上げるところでございますが、本日はあいにく他に公務が入っておりますことから、代わって一言挨拶をさせていただきます。

委員の皆様には大変お忙しい中、また暑い中、出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、御承知のとおり、新型コロナウイルスの流行によりまして、様々な問題が生じております。社会経済活動の停滞はもとより、活動の自粛に伴いまして、フレイルの進行、さらには、本日の新聞にも出ておりましたけれども、サービスの利用を控えることによる認知症の進行など、様々な歪みが生じているところでございます。

このように社会全体が不安定な状態だからこそ、市民の皆様が生きがいをもち、健やかで幸せに暮らし続けられることが、市民や市全体にとってこれまでも増して重要であると考えているところでございます。

現在、本市では、来年度からの12年間の長期目標となります第6次草津市総合計画の基本構想を策定中でありまして、この基本構想の中に描きます市の将来の姿を健幸創造都市と位置づける予定をしております。

平成28年に健幸都市宣言を行いまして、間もなく4年が経過をしようというところでございます。

本日は、この後事務局より、健幸都市づくりに関する令和元年度の実績と令和2年度の計画について御説明させていただきます。皆様方には積極的な御意見あるいは御提言を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

<副市長、退席>

【事務局】

<草津市市民参加施行条例に基づき、傍聴者について報告>

<草津市附属機関運営規則に基づき、委員会が成立していることを報告>

【事務局】

それでは、以後の進行を三浦委員長にお願いする。

【委員長】

この健幸都市づくりは、先ほど副市長からお話があったように、宣言をしてから間もなく4年となる。私は計画策定から携わらせていただいているが、草津市は、健幸都市として全

国的にも有名になるべく、健康にかかわる部署だけでなく、都市計画部や建設部、まちづくり全体にも関わる健幸という考え方を推し進めてきた。新しく委員になられた方もおられるので、新しい情報や御意見をいただきながら進めていけばと思う。

それでは、事務局から資料の確認をお願いしたい。

【事務局】

・資料確認

2 議事

1) 草津市健幸都市基本計画の令和元年度および令和2年度の主な取組について

【委員長】

まずは事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

・資料にもとづき、説明

【委員長】

今年度が4年目ということで、進捗確認がしやすいように資料を作っていた。資料1の右側には全体目標の記載もあるが、まだあまり上がってきていないところである。今回初めて委員になられた方もおられるので、全体像を把握していただければと思う。また、令和2年度の計画については、このとおり予算がつき、実施される予定である。

それでは御質問や御意見などがあればお願いしたい。

【委員】

全体目標である「「健幸なまち」だと思える市民の割合」が平成28年度の38.0%から令和元年度30.2%に下落しており、令和4年度に60.0%を達成するのは困難だと思うが、事務局はこれをどのように考えているのか。

【事務局】

市民意識調査での数値であり、年代別、地域別などで調べているが、明確な理由が分からず苦慮しているところである。引き続き、この目標に少しでも近づけるように基本計画の各施策を推し進めていくとともに、啓発にも力を入れていきたい。

【委員長】

健幸という言葉はまだ十分に認識いただけていないかもしれない。広報啓発などの取組

はこの中に記載があるか。

【事務局】

資料2の22ページに健幸都市くさつの啓発について記載させていただいた。啓発の取組としては、各種イベントの開催や、ポスターやロゴマークのピンバッチの作成を行った。また、今年度については、新型コロナウイルスの影響もあるため予定ではあるが、健幸イベントの開催を考えているところである。

また、折しも広報くさつ9月1日号において、健幸都市くさつの特集を掲載している。その中身としては、草津市の平均寿命が、全国でも高い位置を占めているということのPRをしながら、その中で平均寿命だけではなく、健康寿命も伸ばしていこうということで、健幸都市の取り組みを掲載させていただいている。例えば、健幸都市宣言への賛同企業数の紹介や、この8月に各地域まちづくりセンターにくさつ健幸ステーションを設置したことについても触れさせていただいた。

委員の皆さんがおっしゃっていただいた通り、60%にはほど遠いところにあるが、やはり広報啓発が重要であると考えているので、今後また皆様のお目にとまるようなPRをさせていただきたいと考えている。

【委員長】

22ページに掲載されているポスターについて、作成の経過など説明をお願いしたい。

【事務局】

こちらのポスターについては昨年度作成させていただき、総合体育館や地域まちづくりセンターなどの各施設や、草津駅等に掲示していただいているところである。

職員同士でどのようなデザインが良いのか意見交換をしながら作らせていただいた。

【委員長】

公募委員の皆さんは広報啓発について、何か意見はあるか。

【委員】

より歩いてもらうためのポスターなのであれば、例えば病院やショッピングモールなど、普段、車を使う人がよく行くところに掲示してはどうか。また、健幸都市くさつのロゴマークがもっと大きい方が良い。

【委員】

資料2の11ページ「児童公園等の再整備」の令和元年度の実績に、7箇所の公園の再整備を実施したとあるが、児童公園がいくつあるうちの7箇所なのか。

【事務局】

児童公園の数は300以上と非常に多く、大きな修繕等の要望があれば整備できる公園の数は少なくなり、小さい修繕等の要望が多ければ整備できる公園の数は増えるため、必ずしも実施箇所の多寡で測れるものではないが、予算の範囲内で、おおよそ7箇所くらいを順次整備しているところである。

【委員】

確認だが、資料1では令和元年度までに施設改修・遊具更新をし終え、令和2年度からは健康遊具の設置をしていくようにも見えるが、施設改修や遊具更新をする中で、健康遊具についても設置していくということなのか。

【事務局】

そのとおりである。これまでも公園整備の中で健康遊具の要望があった場合には設置してきたが、健康遊具の要望も多くなっていることから、より強調したかたちで記載をしている。

【委員】

老人クラブ連合会の活動は、健康寿命に大きく関わりがあると思っている。老人クラブ連合会で人気があるのはグラウンドゴルフだが、草津市には専用のグラウンドゴルフ場がない。他市は専用のグラウンドゴルフ場があるが、市外の者は利用料が高くなる。グラウンドゴルフ場を作る計画はないのか。

【事務局】

グラウンドゴルフは大変人気があり、整備の要望があるということも承知している。草津川跡地公園の区間3にあたる部分ではグラウンドゴルフ場を作っていきたいという思いはあるが、時期としてはまだ先になる。

【委員】

ぜひ前向きに検討していただきたい。

【委員】

「自転車道のネットワーク化」と「ビワイチの推進」とあるが、自転車関係のことについて、前向きに進めていくというのは結構なことだと思う。「自転車道が繋がっていること」と「それを上手く活用していくこと」が組み合わさる必要があると考えるが、それぞれの取組の進捗状況について補足説明をしていただきたい。

【事務局】

ビワイチについては滋賀県と県内の市町を挙げて取り組んでいるところであり、ネットワークとしての整備については、湖周道路については滋賀県が整備を進めているところである。また、ビワイチプラスという取組があり、湖岸からまちなかへも立ち寄ってもらうことを目的として、草津川跡地公園の区間1にあたる部分について、自転車道を整備していただいた。利用者が湖周道路を横切ることなく、利用者を安全に草津川跡地公園まで誘導できるよう、湖周道路の下をくぐる道を設計し、これから工事にかかろうというところである。

【委員長】

ビワイチの利用者数は把握しているのか。

【事務局】

ビワイチの利用者数については、草津市だけの人数はないが、滋賀県全体では定点カメラで人数をカウントしており、その数は伸びてきているところである。その評価もあって、ナショナルサイクルルートという日本に3つのエリアの1つにビワイチも位置付けられている。

【委員】

このコロナの影響で、私自身は人の健康づくりというところに関連して活動をしているが、4月に小学校が休校となり、その時にはオンラインで運動指導をした。また、特に高齢者はインターネット環境がない場合もあるので、自宅でできるプログラムの冊子を作って配布した。やはり高齢者の場合、介護予防の観点から、1人で運動するよりもグループで運動することが好ましく、公園の広さが要介護状態の進行と逆相関というデータもある。

海外と比べて、特に日本人は自粛期間が終わっても自粛を継続しているという報告もある。やはり意識的に運動をしていかないと、今後、健康に関してはかなり影響が出てくることが推測されるので、高齢者も参加できるような様々なイベントを検討してほしい。

【委員】

医療保健関係のことで、在宅医療・介護連携や生活習慣病、認知症への取組について記載いただいているが、歯科口腔ケア関係（オーラルフレイル）のことも盛り込んでいただきたい。

【事務局】

草津市では今年度から在宅医療介護連携センターを草津総合病院に設置をした。その中で口腔ケアについても非常に重要であると考えているので、まだ検討段階ではあるが、進めていきたいという思いである。

【委員】

資料2の14ページの令和元年度の「実績」の「健診未受信理由を把握するためのアンケート」は結果がでているのか。また、同じページの「評価・課題」の「データを活用した学区ごとの健康状態の見える化を行い、地域の特性に応じた健康づくりを進めることができました。」というのは具体的にどのようなことをしたのか。

【事務局】

まず1点目のアンケートについては、地域によって未受診理由が異なっており、一部地域については医療機関が少ないため、受診できる機会がないという結果であった。それを受けて、今年度は、一部地域の地域まちづくりセンターを会場として集団検診を実施するよう進めているところである。

あと2点目の地域の特性に応じた健康づくりを進めたという部分については、国保や協会けんぽのレセプトデータの分析を行い、地区担当保健師が地域の方とどのように健康づくりの取組を進めていくべきか協議をさせていただいた。

【委員】

将来の人口を見込んで計画を推し進めるべきだと考えるが、草津市の人口のピークはいつなのか。

【事務局】

人口については健幸都市基本計画の7ページに記載をしており、計画策定時点のものではあるが、令和12年までは増加を続け、その後ゆるやかに減少していく見込みであり、高齢者の増加と働き世代の減少を見据えて、この健幸都市づくりの取組を進めているところである。

【事務局】

補足としては、計画の策定期間により人口推計にはばらつきがあるが、現在、第6次総合計画を策定中であるので、その計画ができあがれば、草津市としての最新の人口推計を出させていただけるとなる。

【委員長】

私の方からも一つ聞きたいのだが、資料2の6ページ「コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定」は目玉の取組であると思うが、この進捗について教えていただきたい。

【事務局】

平成30年度に計画を策定し、都市機能や居住環境の誘導や公共交通ネットワークの形成を進めているところである。草津市立地適正化計画は20年先を見通しているが、20年後に何かが完成するというものではなく、ゆるやかに都市機能や居住環境をまちの中心に移動させていくというものなので、数年単位で目に見えた成果があるというものではない。

2) 健幸都市づくりの推進に向けた意見交換

コロナ禍における健幸都市づくりについて

【委員長】

事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

・資料にもとづき、説明

【委員】

コロナ禍における学生の様子も含めて共有させていただこうと思う。新入生については、約70%が新しい人間関係をつくれていないという状況である。今回、在宅勤務も含めて様々なかたちで自宅に引きこもったわけだが、鬱や高血圧、家庭内暴力など、新しい人との繋がりやコミュニケーションの不足による影響が様々なところに出てきている。やはり何らかのかたちでコミュニケーションをとることが必要であり、安心して外に出て、コミュニケーションが取れる場所やワーキングスペースの整備も必要であると考えている。

また、何もかもを怖がってしまって、客観的に、科学的に安全を判断するということができない学生もいる。科学的に物事を判断できる力を育てることが将来的に健康につながると考える。

あと、大学としての要望でもあるが、南草津が抱えている公共交通の課題について、車の渋滞に加えて駅構内も密な状態であるので、解消にむけて取り組んでもらいたい。

【委員】

私は子育てサークルをしているが、参加者から、一日中、子どもと一緒に過ごす日々が続く、ストレスが溜まって自分が壊れてしまいそうだという相談を受けることがある。

草津市では、動画の配信をさせていただいているとのことだが、誰かと実際に会うということの必要性を強く感じるので、屋外で対面でできるようなイベントについても実施していただきたい。

【委員】

私はパン教室をしていて、つい最近、子供会から講師をしてほしいという依頼があったのだが、ソーシャルディスタンスを守っての施設利用となるので、施設の規定により、従来よりも定員が少ないところばかりで、利用できる施設が見つからなかった。

公共施設の利用制限について、特例措置を設けるなど、もう少し緩和できないものか。

【事務局】

今回のコロナについては、基本的には滋賀県で一定イベント開催や施設利用等の基準を作っているのですが、それに基づいて草津市も基準を作っているところであるが、次々と状況が変わるので、細かなルールを作りたいが追いつかないという状況である。

これが長期化するのであれば、柔軟な対応も含めてもう少し細かなルール作りができるのではないかと考えてはいるが、現時点では杓子定規なルールになってしまっており、大変ご迷惑をおかけしていると感じている。

【委員】

クラスターを起こした大学生に対する誹謗中傷や、学校現場における差別的な言動についての報道を目にし、非常に残念に思っている。心の問題なので難しいとは思いますが、病気をした人を思いやる心の醸成が必要であると考えている。

【委員】

子どものコロナに関する差別、言動についての心配事との話なので、現状をお伝えすると、市内の小中学校においては、幸いなことにこれまで児童生徒および職員から感染者は発生していない。

その中で、第一波が全国的に問題となったときから、コロナに感染した人への接し方については、小中学校でも継続的に指導しており、今後もこの問題に取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

私は老人クラブ連合会と併せて、まちづくり協議会でも役員をしているが、今年度はほとんどのイベントが実施できていない。次年度以降、予算が減らされてしまうのではないかと心配している。

【委員】

商工会議所の立場と経営者の立場で話をすると、私は草津川跡地公園（区間2）にあるグリーンロフトを運営させていただいている。この草津川跡地公園（区間2）には一周2km程度のランニングコースがあり、「くさつランフェスティバル」というイベントを立ち上げて、

実行委員会をつくった矢先に、コロナの影響で来年の10月まで延期となった。将来的には大きなイベントにしていきたいという思いがあるので、御承知おきいただきたい。

あともう一つは、スイミングスクールを運営させていただいて、緊急事態のときにはクラスターがスポーツクラブで起こったということで、クレームの電話をいただいたり、休業要請を受けざるを得なくなったりとスイミングスクールも矢面に立たされた。幸いなことに、まだスイミングスクールから感染者は発生していないが、どれだけ感染対策をしても、いずれは感染者が発生するのではないかと思う。

市だけではなく大学や企業など、みんなで感染した人を責めないような雰囲気を作っていく必要があると考える。

【委員】

屋内でする運動には限界があるので、屋外でする運動としてラジオ体操をみんなで一斉に外に出てやってみようか。

また、先ほど斎藤委員と河合委員から講座等の話があったが、健康推進員として離乳食レストランを実施しているが、これまで2時間で実施していたところを1時間ずつの入れ替え制にしたり、試食をなくしたりするなど、工夫をして活動しているところである。

【委員】

保健所は感染防止の最前線で対応しており、これまでは健康づくりの旗振りをしてきたが、人手不足によりそこまで手が回らないといった状況である。そのような中で今日皆さんの話を聞いていて色々と工夫されていると感じた。

高齢者施設でも面会が制限されて、認知症やフレイルが進んでいる状況を私自身も見聞きするが、我々としては、忙しい中でも病院や高齢者施設、専門職の教育には力を入れているので、市民や各種団体への啓発については市に期待するところである。

先ほども誹謗中傷や人権侵害の話があったが、市民が過剰に恐れないように、市には正しい情報を発信していただきたいと思う。

【委員長】

様々な意見をいただいたので、市として今後の取組に向け検討をお願いしたい。また、今後もこのような状況下でも健康維持できるような取組を皆さんと一緒に考えていきたいと思う。議事は以上となるが、議事録については、事務局でとりまとめをした上で、確認を私に一任いただいてもよいか。(⇒異議なし)

【事務局】

最後になるが、先ほど感染された方への誹謗中傷や人権侵害という話があったが、学校をはじめ、様々な取り組みをさせていただいているが、市役所においては、人権政策課や人権セ

ンターで、そのような差別等がないよう周知や広報をするほか、相談の体制をとっているところである。

また、今後もこのような状況下において健幸都市づくりを進めるにあたり、我々だけでは分からない現場からの視点や意見をいただければと思う。

次回の日程については2月から3月頃の開催を予定している。通知にて日程の確認をさせていただく。事務局からは以上である。

4. 閉会
